

講義日程・時間	
8月 21 日 水 曜日	6 時間

1. 授業科目名	【選択必修】ペアレントトレーニング		
2. 担当教員名	福田 恭介		
3. 授業の概要	<p>行動療法や応用行動分析の考えに基づくペアレントトレーニングは、知的障害だけでなく、自閉スペクトラム症(Autism Spectrum Disorder), 注意欠如・多動性障害(Attention Deficit/Hyperactivity Disorder: AD/HD), 学習症(Learning Disability: LD)などの発達障害を持つ子どもの親に対しても行われている。</p> <p>ペアレントトレーニングでは、いきなり子どもへの対応を考えるのではなく、まず、子どもの行動を観察・記録し、記録されたデータをもとに、子どもの行動の意味をとらえていく。そこから初めて、どのような言葉かけや対応ができるかを考えていき、親の子どもへの対応が変わることを目指す。</p> <p>ペアレントトレーニングを行うと、子どもの問題行動が減り、適応行動が増えるだけでなく、親の子育てに伴うストレスや抑うつ感も軽減することが示されている(福田, 2011)。</p> <p>ペアレントトレーニングの取組は、教育現場で子どもと関わる中で困難を抱えている教師への支援にも応用可能である。なぜなら、教師は子どもの行動を観察・記録できる立場にあり、記録されたデータから子どもの問題行動の意味を探り、適応行動を増やすための手がかりを見つけることができるからである。</p> <p>この講義では、子どもの行動を観察・記録することによって、子どもの行動にどのような意味があるのかを探り、そこからどのような手がかりを見つけることができるのかを考えていく。さらに、子どもへの対応を変えることによって、子どもの行動がどのように変化していくのか、これまで取り組んだ事例を交えて話し合っていく。その中で、教師としてどのような対応が考えられるかをグループで討論していただく。</p>		
4. 到達目標	<p>(1)子どもの行動と教師の言葉かけを観察・記録することができる。</p> <p>(2)子どもの行動及び教師の言葉かけの観察・記録結果から子どもの行動の意味を考えることができる。</p>		
5. 授業内容・授業方法等	コマ	授業内容	授業方法
	1	1. ペアレントトレーニングとは 2. 観察と記録から行動の意味を読み取る	講義とワーク
	2	3. 環境の整え方 4. 望ましい行動を増やすには	講義とワーク
	3	5. 困った行動を減らすには 6. できないときの手助けの仕方	講義とワーク
	4	7. 事例検討 8. テスト	ワークとテスト
6. テキスト・参考文献等	「ペアレントトレーニング実践ガイドブックーきつとうまくいく。子どもの発達支援」福田恭介(編著)2011 あいり出版		
7. 成績、評価方法・基準	テスト(100点満点のテストで90点以上A、80点から90点B、70点から80点C、60点から70点D、60点未満は不合格)		
8・特記事項			